

2020年4月10日

各位

会社名 株式会社ジェイグループホールディングス
(コード番号3063:東証マザーズ)
本社所在地 名古屋市中区栄三丁目4番28号
代表者 代表取締役 新田 二郎
問合せ先 取締役執行役員管理本部長 赤工 朝飛
電話番号 (052) 243-0026 (代表)
(URL <http://www.jgroup.jp/>)

金利スワップ評価損の計上及び通期連結業績予想数値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、下記のとおり金利スワップ評価損を計上することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、2019年4月10日に公表いたしました当社の2020年2月期通期連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 金利スワップ評価損 120百万円

前期から進めている不動産開発に伴う長期借入金において、支払金利を固定化し金利上昇のリスクをヘッジするために金利スワップ契約を締結しておりますが、洗い替えによる金利スワップ評価損として、期末に120百万円を計上しております。

なお、金利スワップ評価損益は、キャッシュフローの動きの伴わない期末日時点の時価評価であり、会計処理は、前期末日時点に計上された評価損益を当期に洗替処理して計上しております。

2. 当期の連結業績予想と実績との差異 (2019年3月1日～2020年2月29日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する 連結当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 15,100	百万円 118	百万円 145	百万円 26	円 銭 2.96
実績値 (B)	14,210	91	8	△174	△19.17
増減額 (B - A)	△889	△26	△136	△200	
増減率 (%)	△5.9	△22.7	△94.5	-	
(ご参考) 前期連結実績 (2020年2月期)	15,056	△51	15	61	7.21

3. 差異の理由

2020年2月期通期連結業績予想につきましては、外食業界での実績が豊富な中川晃成を2019年7月より新社長として招聘し、事業構造改革を進めてまいりました。

売上高は、既存店の収益強化のため新規出店を抑制したことや、消費増税、2月以降の新型コロナウイルスの影響等により、当初予想を889百万円下回り14,210百万円となりました。既存店の収益強化では、ショッピングセンターを中心とした不採算店舗の整理や好調な業態へのリニューアルを進めたことで、消費増税や10月の大型台風といった外部環境の悪化がありながらも、順調に改善が進みました。新型コロナウイルスによる外食需要減少の影響は、当期への影響は限定的ではあるものの2月度の売上高にマイナス影響を及ぼしております。

営業利益については、組織構造改革や既存店の収益強化への取り組み及び不動産売却等により前期に比べ142百万円改善するなど順調に推移しておりましたが、2月には新型コロナウイルスの影響を受けたこともあり、当初予想を26百万円下回り91百万円となりました。経常利益については、上記の金利スワップ評価損120百万円を計上したこと等により、当初予想を136百万円下回り8百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益については、店舗閉鎖損失や減損損失等の特別損失及び税務費用等の計上により、当初予想を200百万円下回り174百万円の損失となりました。

以 上